

日本犯罪心理学会

Japanese Association of Criminal Psychology

第 62 回大会プログラム



2024年9月14・15日

福山大学

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8
☎075-431-0361 FAX 075-431-9393
▶<https://www.kitaohji.com> (価格税込)

犯罪行動の心理学 [原著第6版]

J. ボンタ, D. A. アンドリュース著 原田隆之訳
A5上製・544頁・定価7150円 膨大なデータに基づいた犯罪リスク要因を示し、科学的知識をもとにしたアセスメントや治療サービスという実践に導く。人間の個性や多様性への畏敬の念と心理学の実践を結びつけ、その重要性を示す。世界中の犯罪 司法臨床現場に影響を与えた原著第6版。

ドムヤンの学習と行動の原理 [原著第7版]

M. ドムヤン著 漆原宏次, 坂野雄二監訳 B5上製・424頁 定価7920円 学習心理学の泰斗・ドムヤンによる米国で評判のテキスト、待望の邦訳。行動の誘発、強化、制御、消去、変容に関わる学習の原理、およびその広範な活用について、神経科学の裏づけを加えつつ新たな研究知見を紹介。

人はいかに学ぶのか

—授業を変える学習科学の新たな挑戦— 全米科学・工学・医学アカデミー編 秋田喜代美, 一柳智紀, 坂本篤史監訳 A5・396頁・定価4620円 『How People Learn (邦題 授業を変える)』から20年間で明らかになった知見に基づき再構成された最新版。脳科学・神経科学、動機づけ研究や文化等多様な切り口から人の「学び」に迫る。

〈生活一文脈〉理解のすすめ

—他者と生きる日常生活に向けて— 宮内 洋, 松宮朝, 新藤 慶, 打越正行著 四六・208頁・定価2970円 生身の身体を伴った、生活する人間を、同じく、生活する人間が理解するとはどういうことか? 乳幼児期の食(共食の体験)、青年期の労働(沖繩のヤンキー)、成人期の政治行動(市町村合併)、老年期の社会関係(孤独・孤立)をとらえて考える。

テキスト 司法・犯罪心理学

越智啓太, 桐生正幸編著 A5上製・632頁・定価6380円 本物の犯罪心理学を学ぶための骨太な教科書。「犯罪行動」「捜査・防犯・矯正」の2部で構成。プロファイリング、ポリグラフ検査、目撃証言、取調べなど、行動科学的な犯罪心理学を中心に、実証的知見を数多く取り入れて編集。日本における真の犯罪心理学者の姿が浮かぶ仕掛け。

時間概念と空間概念の発達

—古典的ピアジェ課題の新たな展開— 松田文子, 岡崎善弘, 日下部典子著 A5上製 116頁 定価5940円 時間と空間の概念形成は子どもから大人になる間にどのような発達の道筋を辿るか。ピアジェ課題に端を発する比較判断の課題を用いた実験からその様相を明らかにした、一連の研究の集大成。

感情制御ハンドブック

—基礎から応用そして実践へ— 有光興記監修 飯田沙依亞, 榊原良太, 手塚洋介編著 A5上製・432頁・定価6160円 本邦で展開されてきた多彩な感情制御研究を一望できる書。基礎理論に始まり、社会・人格・認知・発達・臨床・教育、さらには経済・司法・労働までの各分野における最新知見を8部31章21トピックで紹介。

法と心理学 狭山事件 虚偽自白 [新版]

浜田寿美男著 四六・370頁・定価2640円 供述分析という新たなフィールドを独力で切り開いてきた著者の初期論考。再審請求が続く狭山事件で、有罪の重要な根拠とされた容疑者の自白はいかに形成されたのか? 自白の変遷過程を緻密に追いながら、そこに「無知の暴露」を見いだす供述分析の具体的実践例。

心理学って面白そう!
どんな仕事で活かされている?

シリーズ **心理学と仕事** (全20巻) **完結!**

シリーズ 監修 太田信夫

●A5判・148～232頁・定価2200～2530円

- | | | | | |
|-------------|------------|------------|-------------|----------------|
| 1 感覚・知覚心理学 | 2 神経・生理心理学 | 3 認知心理学 | 4 学習心理学 | 5 発達心理学 |
| 6 高齢者心理学 | 7 教育・学校心理学 | 8 臨床心理学 | 9 知能・性格心理学 | 10 社会心理学 |
| 11 産業・組織心理学 | 12 健康心理学 | 13 スポーツ心理学 | 14 福祉心理学 | 15 障害者心理学 |
| 16 司法・犯罪心理学 | 17 環境心理学 | 18 交通心理学 | 19 音響・音楽心理学 | 20 ICT・情報行動心理学 |

大会スケジュール

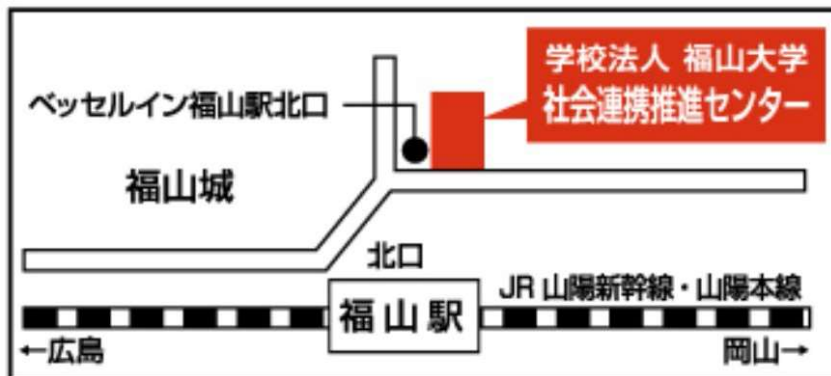
		9月14日(土)						9月15日(日)					
9:00		受付 1階ロビー						受付 1階ロビー					
10:00		口頭発表 (一般) 1	口頭発表 (一般) 2	口頭発表 (一般) 3	口頭発表 (事例) 1	公募ミニ・ シンポ 1	ポスター 発表 1	大会企画 ミニ・ シンポ 1	公募ミニ・ シンポ 2	公募ミニ・ シンポ 3	口頭発表 (事例) 2	公募ミニ・ シンポ 4	ポスター 発表 2
		処遇 / 非行・ 犯罪観	各種犯罪等	防犯等 / 査定・ 評価	社会内におけ る少年問題へ のエビデンス に基づく 心理学的支援	処遇 / 査定・ 評価 / 各種犯罪等	犯罪被害者等 への途切れな い支援	臨床犯罪心理 学における 感情労働 III	災害と犯罪の 関係を考える	犯罪心理学 研究における data visualization	非行・ 犯罪観 / 防犯等		
		903 室	706 室	402 室	403 室	301 室	802 室	903 室	706 室	402 室	403 室	301 室	802 室
12:00		昼休憩						昼休憩					
13:00		総会 903 室						大会企画 ミニ・ シンポ 2	大会企画 ミニ・ シンポ 3	公募ミニ・ シンポ 5	公募ミニ・ シンポ 6	公募ミニ・ シンポ 7	
13:45		休憩						司法面接の 現場	拘禁刑下にお ける矯正指導 の在り方	矯正における 効果検証のこ れまでと これから	持続可能な 再犯防止支援 とは	子どもにとつ て安心・安全 な面会交流 とは	
14:00		全体シンポジウム 防犯からの地域活性						903 室	706 室	402 室	403 室	301 室	
15:00		903 室 (主会場 : 対面) / 301 室 (オンライン配信) 402 室 (オンライン配信) / 706 室 (オンライン配信)						受付 : 1階ロビー 展示・販売 : 1階 102 室 クローク : 2階 205 室 大会本部 : 7階 704 室 休憩室 : 8階 803 室 常任理事会 : 9月13日(金) 16:30~17:45 7階 705 室 理事会 : 9月13日(金) 18:00~20:00 7階 705 室 研究委員会 : 9月14日(土) 12:05~13:00 7階 705 室 編集委員会 : 9月15日(日) 12:05~13:00 7階 705 室					
17:00													
18:00		懇親会											
20:00		福山城天守前広場											

※ 臨時会員の方は、口頭発表（事例）に参加できません。

会場へのアクセス

JR「福山駅」北口から出て、北へ2分

北口から出ると左手には福山城、右手にはバスロータリーが見えます。真っすぐ進んだ先の横断歩道を越えた先に会場があります。



会場：福山大学社会連携推進センター（広島県福山市丸之内1丁目2-40）

問い合わせはメールでお願いいたします (jacp62nd@gmail.com)。

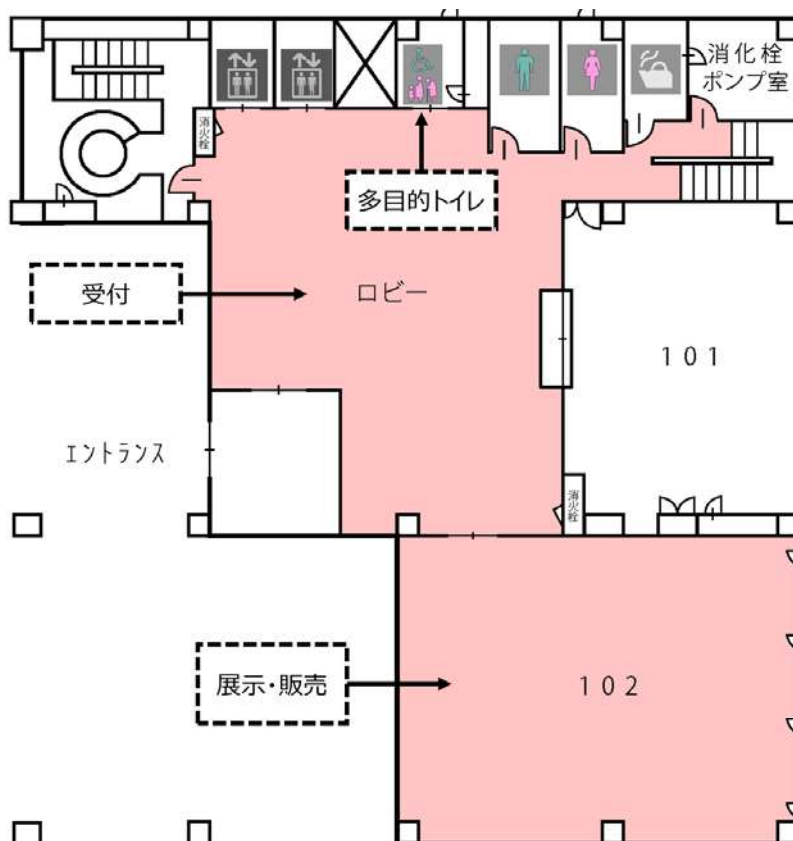
また、会場には駐車場がありません。公共交通機関をご利用ください。

1階

受付：ロビー

書籍等展示・販売：102

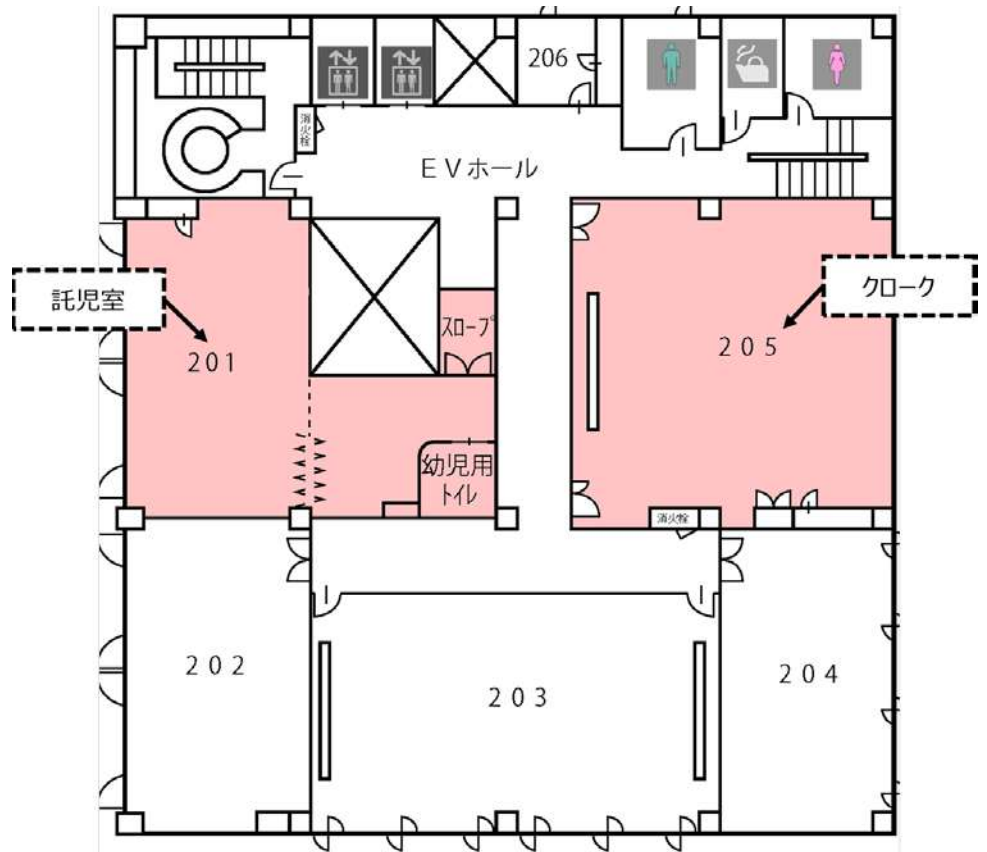
多目的トイレ：エレベーター横



2階

託児室：201室

クローク：205室

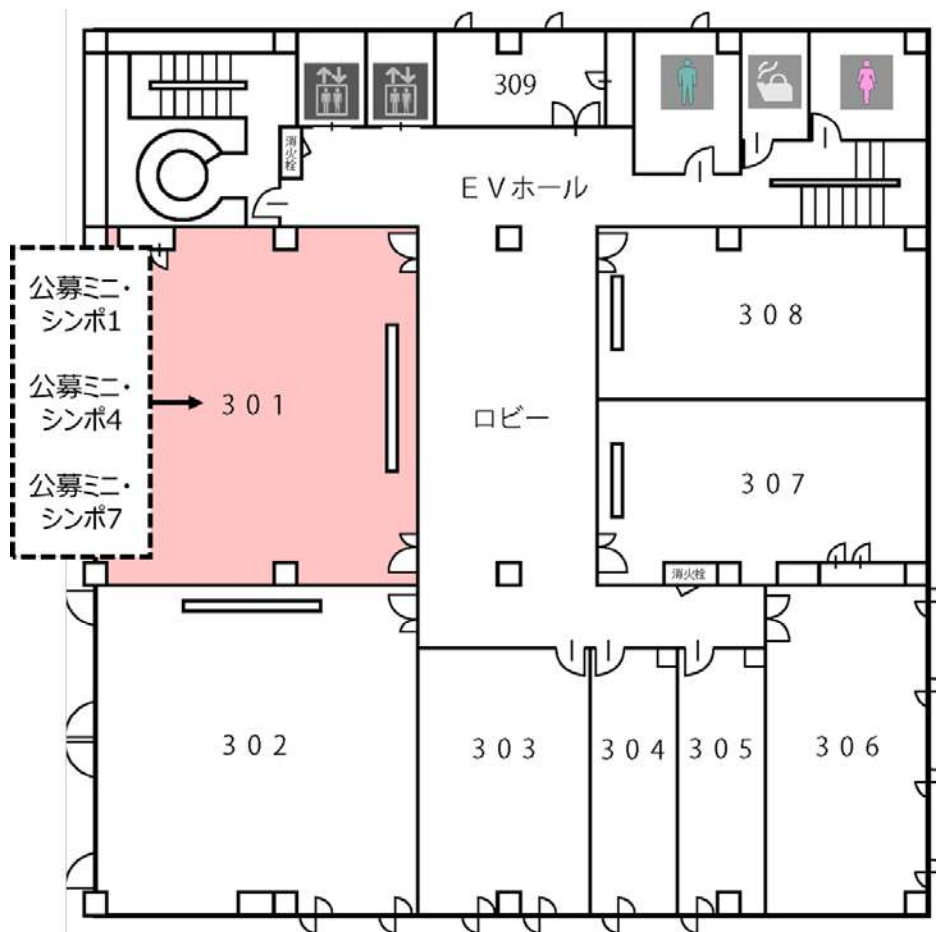


3階

公募ミニ・シンポ1：301室

公募ミニ・シンポ4：301室

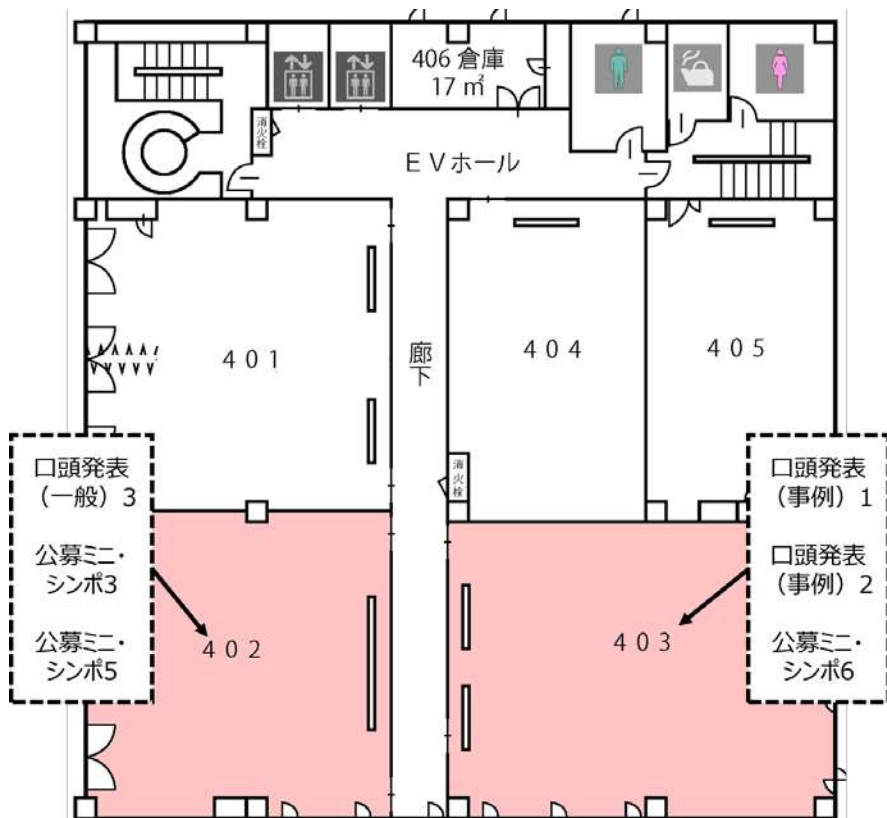
公募ミニ・シンポ7：301室



4階

口頭発表（一般）3：402室
公募ミニ・シンポ3：402室
公募ミニ・シンポ5：402室

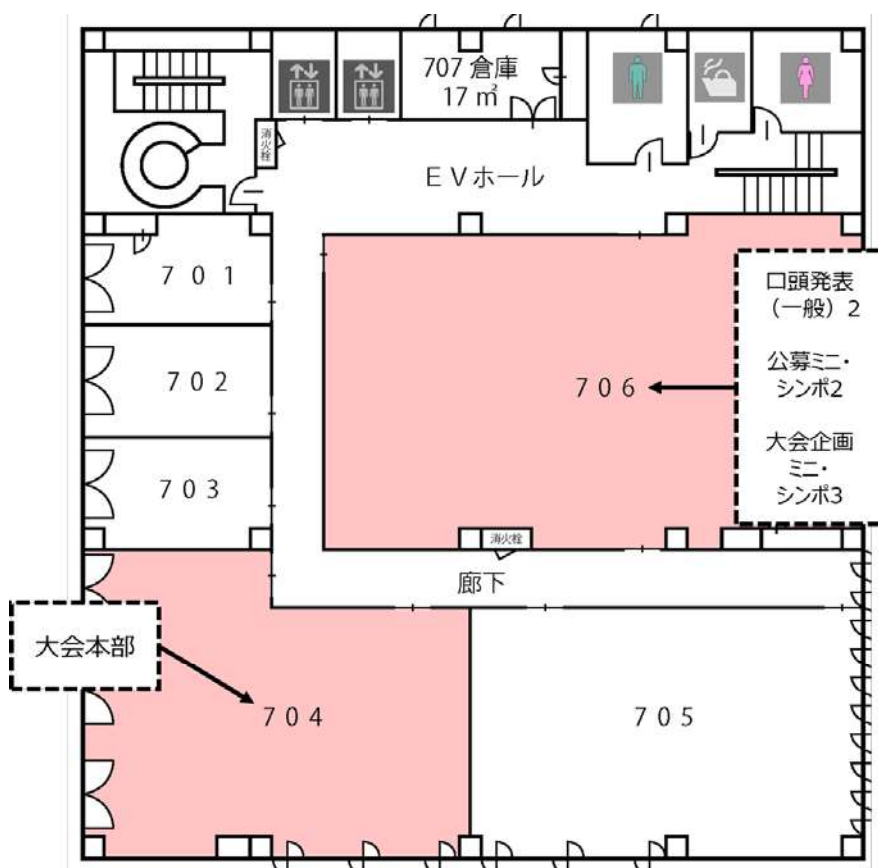
口頭発表（事例）1：403室
口頭発表（事例）2：403室
公募ミニ・シンポ6：403室



7階

大会本部：704室

口頭発表（一般）2：706室
公募ミニ・シンポ2：706室
大会企画ミニ・シンポ3：706室

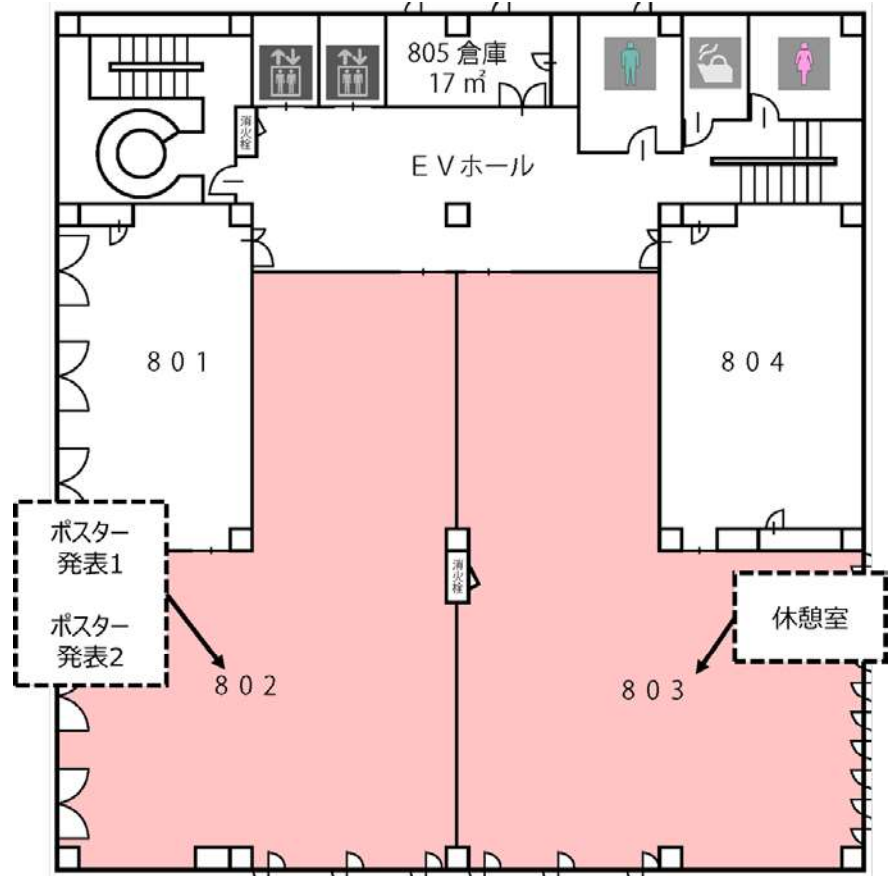


8階

ポスター発表 1 : 802 室

ポスター発表 2 : 802 室

休憩室 : 803 室



9階

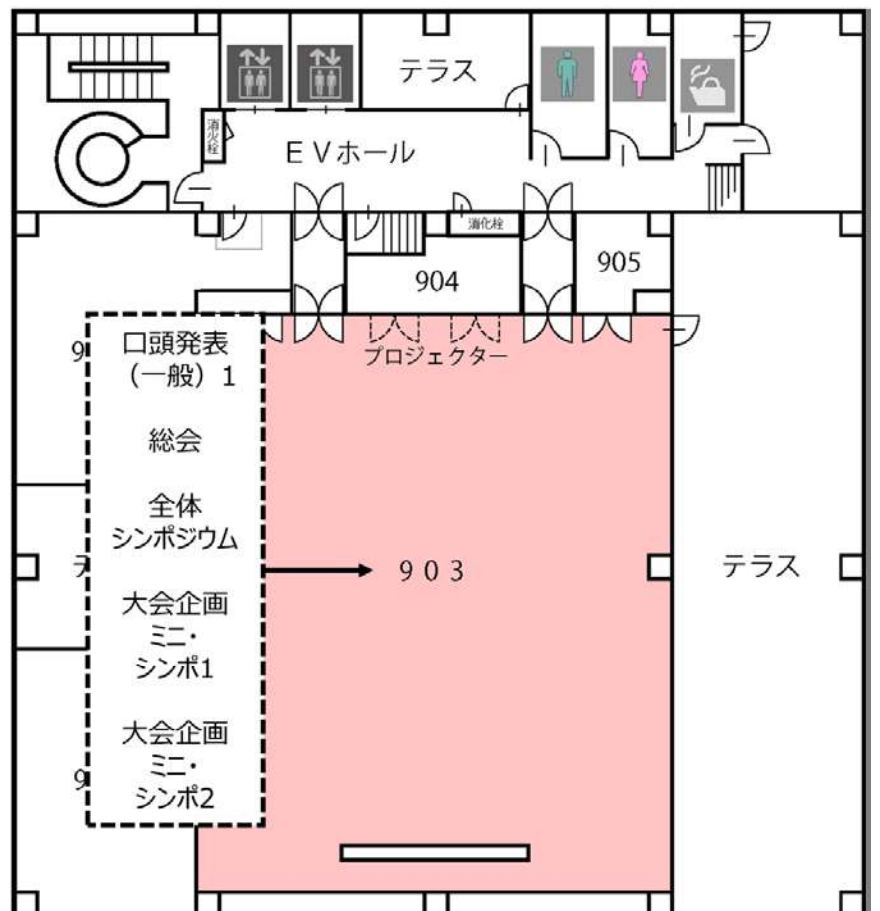
口頭発表 (一般) 1 : 903 室

総会 : 903 室

全体シンポジウム : 903 室

大会企画ミニ・シンポ 1 : 903 室

大会企画ミニ・シンポ 2 : 903 室



大会参加者へのご案内

1. 大会受付

大会両日ともに9時00分より102室にて受付を行います。

2. 大会諸費用

大会参加費 正会員（一般）・臨時会員（一般） 7,000円
正会員（学生）・臨時会員（学生） 3,000円 ※受付に学生証提示のこと

※参加証は、会員区分にかかわらず、大会当日に受付にてお渡しします。

※名誉会員の大会参加費は、無料です。

※臨時会員の方は、口頭発表（事例）に参加できません。

3. クローク

102室にて、お荷物をお預かりいたします。お預かり時間は、第1日目は9時00分～17時30分まで、第2日目は9時00分～15時30分までです。クロークは施錠ができないため、貴重品は必ずご自身でお持ちください。

4. 参加証

会場内では、必ず、参加証（ネームプレート）をお付けください。

5. 発表会場など

ポスター発表の会場は802室です。口頭発表と各シンポジウムの会場は、大会スケジュールをご参照ください。

6. 打合せ、休憩、展示・販売コーナーなど

シンポジウムや一般発表の打合せ、ご休憩には803室（両日とも9時00分から利用可能です）をご利用ください。展示・販売コーナーは1階ロビーです。

7. 昼食、喫煙所

昼食は、会場近隣の飲食店やコンビニエンスストア等をご利用ください。お弁当などご持参の方は、休憩室（803室）をご利用ください。ゴミは、各自でお持ち帰りください。また、館内は、全て禁煙です。

8. 総会

第1日目の13時00分から13時45分まで、903室にて開催いたします。

9. 懇親会

懇親会は、福山城天守前広場で行います。懇親会は申込制で、先着100名様をめぐりに募集いたします。事前申込みなしでの当日参加は原則不可ですので、7月31日（金）までに申込みをお願いいたします。懇親会に関する詳細な情報は、大会HP上でお知らせするほか、別途メール添付でご送付いたします。

10. 大会本部

大会本部は704室です。緊急のご連絡の際には、本部にお越しいただくか、お近くのスタッフにお声掛けください。

また、大会本部では資料の印刷・複写などは受け付けておりません。必要な方はあらかじめご用意ください。

11. 託児室

9月14日（土）及び9月15日（日）の大会期間中、大会会場の2階に託児室を開設します。現在保育園と検討中であり、詳細が決まり次第、申込方法のご案内をさせていただきます。

12. 発表原稿（大会抄録原稿）の提出方法

Webでの提出となります。2024年8月19日（月）までに、発表申込みと同じ申込みシステムから、PDFファイルにてご投稿ください。ただし、この提出方法が困難な場合は事務局にご相談ください。

※大会会場での提出は受け付けませんのでご了承ください。

※期限までに抄録原稿の提出がない場合は、正式な学会発表とは認められません。

※抄録原稿作成要領に従って原稿を作成してください。作成要領は、学会ホームページ上に掲載しております。

抄録原稿に関する問い合わせ先

日本犯罪心理学会第62回大会抄録原稿問い合わせ受付係

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5

（株）国際文献社内 日本犯罪心理学会第62回大会ヘルプデスク

E-mail: jacp-desk@bunken.co.jp

Fax: 03-5227-8632

※連絡はできるだけE-mailにてお願いします。

なお、臨時会員で大会後に刊行されます本大会の抄録集の購入を希望する方も、上記までお問合せください。

口頭発表のご案内

1. 口頭発表（一般）

座長 1 名が司会進行を行います。1 件あたり 15 分を割り当て、発表を 12 分、質疑応答を 3 分とします。時間をお守りいただき、座長の指示にしたがって発表を進行させてください。会場スタッフによる合図は以下の通りです。

- 1 鈴 発表終了 2 分前（10 分経過）
- 2 鈴 発表終了（12 分経過）
- 3 鈴 質疑応答終了（15 分経過）

2. 口頭発表（事例）

口頭発表（事例）は正会員のみ参加の会場となりますので、ご注意ください。座長 1 名が司会進行を行います。1 件あたり 30 分を割り当て、発表を 20 分、質疑応答を 10 分とします。時間をお守りいただき、座長の指示にしたがって発表を進行させてください。会場スタッフによる合図は以下の通りです。

- 1 鈴 発表終了 2 分前（18 分経過）
- 2 鈴 発表終了（20 分経過）
- 3 鈴 質疑応答終了（30 分経過）

3. 機材

口頭発表（一般・事例）に用意されている機材は、液晶プロジェクターです。パソコンは各自ご持参ください。Mac や iPad をご使用される場合は、接続アダプタ（HDMI や D-Sub）もご持参ください。なお、各セッションの発表開始時間前に各自パソコンの動作確認を行ってください。

4. 配布資料

配布資料は各自でご用意ください。大会本部では配布資料の印刷は行いません。

5. 発表成立の要件

セッション全体に参加し、口頭発表を行い、討議に参加することと、期限までに発表原稿抄録を提出することにより、発表が成立したと認められます。

6. 責任発表者、連名発表者、発表の取り消し

プログラムで「○」印が付いている方が責任発表者です。責任発表者が欠席した場合は発表取り消しとみなします。ただし、大会本部の了承を得て、連名発表者が発表を代行することができます。責任発表者の欠席や連名発表者による発表代行がある場合、大会前は大会ヘルプデスクへ、大会期間中は大会本部へ連絡してください。

口頭発表において発表の取り消しがあった場合、その後の発表スケジュールの繰り上げは行いません。座長の指示にしたがって、討論や休憩等の時間にあててください。

ポスター発表のご案内

1. 掲示

ポスター発表の会場は、802 室です。演題番号をご確認いただき、所定のパネルにポスターを掲示してください。

掲示時間は第 1 日目、第 2 日目とも 10 時 00 分～12 時 00 分です。ポスターの掲示は両日とも 9 時 00 分から可能ですので、発表開始前に作業を行ってください。画鋏は会場に用意します。発表終了後は、迅速に撤去していただくよう、ご協力をお願いします。終了時刻後も撤去されていないポスターは大会本部で撤去・廃棄することがあります。

2. ポスター形式

発表用ポスターは「縦 175cm × 横 150cm」に収まるように作成してください。最上段に、題目・氏名・所属を明記してください。

3. 発表資料

配布資料は各自でご用意ください。大会本部では配布資料の印刷は行いません。

4. 発表成立の要件

ポスター発表では、ポスターを掲示し、これをもとに個別に討議を行っていただきます。掲示時間は 2 時間で、責任在席時間は 1 時間です。下記の時間に、ご自身のポスターの前に在席し、質疑応答を行うことと、発表抄録を提出することにより、発表成立が認められます。

	第 1 日目	第 2 日目
演題番号が奇数の場合	10 時 00 分～11 時 00 分	10 時 00 分～11 時 00 分
演題番号が偶数の場合	11 時 00 分～12 時 00 分	11 時 00 分～12 時 00 分

5. 責任発表者、連名発表者、発表の取り消し

プログラムで「○」印が付いている方が責任発表者です。責任発表者が欠席した場合は発表取り消しとみなします。ただし、大会本部の了承を得て、連名発表者が発表を代行することができます。責任発表者の欠席や連名発表者による発表代行がある場合、大会前は大会ヘルプデスクへ、大会期間中は大会本部へ連絡してください。

防犯からの地域活性

- 企画・司会 平 伸二 (福山大学)
話題提供者 島田 貴仁 (警察庁科学警察研究所)
大久保 智生 (香川大学)
公文 一也 (高知県安芸福祉保健所)
権蛇 明 (広島少年鑑別所)
指定討論者 桐生 正幸 (東洋大学)

日本犯罪心理学会は、法務省・警察・裁判所等の刑事司法関連の現場の会員、あるいは大学・研究所等で研究を主にされている会員で構成されている。それぞれ立場は違うが、非行・犯罪を抑止したいという思いは共通しているはずである。一次予防として広報啓発、法整備、防犯環境設計などに始まり、二次予防として犯罪リスクの高い人への相談及び介入、三次予防としての加害者への矯正指導及び治療、更生保護など多岐にわたる。また、非行・犯罪及び再犯の防止は、法務省・警察・裁判所等の刑事司法に携わる人だけではなく、一般市民の参加を得て進んできた。一般市民と連携した取り組みは、孤立者の居場所の確保や地域の活性化などを促進して、犯罪認知件数及び再犯者数の減少に貢献している。

全体シンポジウムでは、非行・犯罪と向き合いながら、行政、教育、福祉、地域との連携をしながら防犯活動を実践されている4名の先生に話題提供をしていただく。具体的には、島田先生からは「警察・自治体の生活安全・市民安全部門と連携した近隣の活性化を通じた防犯対策」、大久保先生からは「地域と連携した総合的な万引き防止対策と防犯アプリを活用した防犯教育・活動」、公文先生からは「自殺予防から始まった農福連携で支援した触法者への事例と地域づくり」、権蛇先生からは「最近の少年犯罪の傾向及び少年鑑別所における地域援助の実際と課題」についてご紹介いただく予定である。

話題提供者のお話を元に、「防犯からの地域活性」に多く携わっておられる、指定討論者の桐生先生から口火を切っていただき、「防犯からの地域活性」に関して何が有効か、何が問題か、参加者のみなさまとともに討論していきたい。

犯罪被害者等への途切れない支援

——犯罪被害者等基本法制定後の歩みとこれからの課題——

企画	伊藤 可奈子 (広島県警察本部警察安全相談課被害者支援室)
企画・司会	赤澤 淳子 (福山大学)
話題提供者	伊藤 可奈子 (広島県警察本部警察安全相談課被害者支援室)
	齋藤 梓 (上智大学)
	木本 克己 (警察庁長官官房犯罪被害者等施策推進課)
指定討論者	櫻井 鼓 (追手門学院大学)

犯罪被害者等基本法が制定され、今年で20年を迎える。同法制定以前は各府省が個別に犯罪被害者等施策に取り組んでいたが、制定後は国全体で総合的かつ長期的に取り組むために犯罪被害者等基本計画が定められ、現在は第4次の5か年計画の下、様々な施策が推進され、更に整備、拡充されているところである。

本企画では、犯罪被害者等支援の現場及び国による施策の検討に関わっておられる先生方をお招きし、被害直後から中長期にわたる各段階において、警察、犯罪被害者等早期援助団体及び地方自治体が行っている支援について話題を提供して頂き、指定討論者からのコメントを踏まえ、犯罪被害者等が再び平穏な生活を営むことができるようになるまでの間、必要な支援等を途切れることなく受けられる社会の実現に向けての課題などについて議論したい。

司法面接の現場

——三者協同の課題と展望——

- 企画・司会 大杉 朱美 (福山大学)
話題提供者 奥野 雄一郎 (京都地方検察庁)
福間 宏美 (島根県警察本部少年女性対策課)
根ヶ山 裕子 (名古屋市西部児童相談所)
指定討論者 仲 真紀子 (立命館大学)

昨年12月に施行された刑法及び刑事訴訟法の一部改正により、被害者等の聴取結果を記録した録音・録画記録媒体に係る証拠能力の特則が新設され、供述者の年齢、心身の状態等に鑑みて、適切な状況下で実施された聴取の録音・録画記録が証拠として取り扱われることとなった。できるだけ正確な情報をできるだけ被面接者の負担なく聴取することを目指す司法面接の重要性は、今ますます高まっている。

司法面接の適切な実施のために従前から様々な取り組みが行われてきているが、検察、警察、児童相談所の三者がいかに連携するかは、連携強化が謳われた2015年から変わらず大きな課題である。加えて、これまで代表者になることの多かった検察官以外が代表者として聴取する場面も今後増えることが予想され、各現場の理解の拡充やスキルの獲得についても喫緊の課題である。本企画では、第一線で各現場に立たれている先生方をお招きし三者三様の現状と課題を共有していただきながら、課題の解決や更なる連携に向けた展望を探りたい。

拘禁刑下における矯正指導の在り方

——支援者の役割と課題に着目して——

企画・司会 中島 学 (福山大学)
話題提供者 佐伯 温 (法務省矯正局)
周布 恭子 (美祢社会復帰促進センター)
矢原 隆行 (熊本大学)
指定討論者 向井 智哉 (福山大学)

2022年に刑法の改正に伴い、これまでの懲役刑と禁固刑が廃止され、新たに「拘禁刑」が制定された。その運用開始は2025年からとされており、現在、拘禁刑を先取る形での様々な取組がそれぞれの刑事施設で実施されてきている。

そこで、本シンポジウムにおいては、作業の他に実施することが刑法においても規定された「改善更生を図るために必要な指導」としての「矯正指導」に着目し、その内容等が従来からの指導からどのような変化・拡充するのか、また、その変化・拡充を実際に担う支援者等はどのような影響を受けるのか、「対話モデル」等をひとつの手がかりとして、その内容と課題についてそれぞれの立場のシンポジストから話題を提供していただき、その検討・議論等を行うこととする。

社会内における少年問題へのエビデンスに基づく心理学的支援

企画	浦田 洋	(京都橘大学)
司会	野村 和孝	(北里大学)
話題提供者	百瀬 覚由	(更生保護施設立正園)
	金澤 潤一郎	(北海道医療大学)
	綿谷 翔	(株式会社こはく社)
	野村 和孝	(北里大学)
指定討論者	安部 尚子	(加古川刑務所)
	浦田 洋	(京都橘大学)

少年による刑法犯は、2004年以降減少し続けており、2022年は前年に比べてわずかに上昇したものの、全体的な傾向としては低下傾向にある。一方で、家庭内暴力や、校内暴力、いじめなどの問題が依然として一定数認められるなど少年問題への対応は重要な課題である。特に、特定の問題行動を繰り返す少年、知的や発達の問題を有する少年、家事事件における子どもへの対応については、社会内において心理学的支援が求められることが少なくない。こういった支援についてはこれまでさまざまな取り組みが試みられてきた一方で、エビデンスに基づく心理学的支援の在り方に関する検討が十分になされてきたとは言い難い状況にある。

そこで、本シンポジウムでは、更生保護施設における少年処遇の取り組み、知的や発達の問題を有する触法者への福祉分野における取り組み、家事事件に関する子供への取り組み、少年問題を主訴とする親への大学附属心理相談センターにおける取り組み、それぞれにおける心理学的支援についてエビデンスの観点からその効用と課題について報告する。その上で、指定討論として、少年非行に携わってきた実務家であり、専門家でもあるお二人の先生からコメントをいただき、社会内における少年問題へのエビデンスに基づく心理学的支援について検討することを目的とする。

臨床犯罪心理学における感情労働 Ⅲ
——情緒を支えるスーパービジョンの力——

企画	門本 泉	(大正大学)
司会	門本 泉	(大正大学)
話題提供者	荒 千陽	(仙台少年鑑別所)
	瀬戸口 智裕	(神奈川県警察本部少年育成課)
	辻 啓之	(加古川刑務所)

一昨年度から続くテーマの第3回目のシンポジウムである。今回は、司法領域の心理臨床家にとってのスーパービジョンを取り上げる。逸脱行為・犯罪行為に至った人、その家族など多様な対象者とのかかわりの中では、時に喜び、悲しみ、不安、怒り、恐怖、迷い、焦燥、落胆など、様々な感情が喚起されうる。これらの感情は、臨床的支援を展開する道具となりうる一方で、関係を緊張させたり、双方の内省を停滞させたりするなど、阻害要因になるおそれも有している。臨床活動に必須とも言えるこの情緒的体験を、スーパービジョンはどのように支え、個々の臨床家の能力を引き出していく機能を持てるのか、いわばスーパービジョンの“効能”について考察する機会としたい。

いずれのシンポジストも、非行少年の鑑別、警察での少年相談、性犯罪者再犯防止指導等、立場は違えど既に長いキャリアがあり、現場では指導者の役割も担っている。しかし今回は、指導者としての体験ではなく、自分が経験したスーパービジョン体験に焦点を当てながら、本テーマについてご発表いただく。前2回と同様、指定討論は設けず、後半は、シンポジストとフロア全体による自由な討論を行う予定である。

災害と犯罪の関係を考える

企画	岡本 英生	(奈良女子大学)
司会	岡本 英生	(奈良女子大学)
話題提供者	宇都宮 敦浩	(創価大学)
	森 丈弓	(甲南女子大学)
	佐藤 健司	(金沢少年鑑別所)
指定討論者	荒井 崇史	(東北大学)

災害には、地震、台風、洪水、火山噴火、そして大規模停電などさまざまなものがある。基本的には自然災害と人為災害に分けることができるが、両者の側面を併せ持つものもある。さらに、被害を受ける側の視点から見れば、パンデミック、テロや戦争も一種の災害として捉えることができる。このように私たちは日常的に災害に遭っていると言っても過言ではないのだが、これら災害と犯罪との関係についての研究は世界的に見てもまだ十分に進んでおらず、よくわかっていないことが多い。日本では阪神淡路大震災（1995年）以降大規模な震災が続いたことで、それら震災と犯罪との関係についての研究が行われてきている。さらに、近年では新型コロナウイルス感染症によるパンデミックが犯罪にどのような影響を与えたかという研究も行われるようになってきている。本シンポジウムではこれら研究の最新の成果について話題提供していただき、検討を行う。具体的には、災害が犯罪の発生にどのような影響を与えるのか、また災害による長期的な影響を軽減させるためにはどのようにすればよいのか、そして災害と犯罪の関係を考える上で今後どのようなことが課題となるのかといったことについて、議論していきたい。

犯罪心理学研究における data visualization

企画	渡邊 和美	(科学警察研究所)
	平間 一樹	(科学警察研究所)
	小野 修一	(山口県警察本部科学捜査研究所)
司会	渡邊 和美	(科学警察研究所)
話題提供者	渡邊 和美	(科学警察研究所)
	小野 修一	(山口県警察本部科学捜査研究所)
	平間 一樹	(科学警察研究所)
指定討論者	大江 由香	(川越少年刑務所)

実務に携わる会員が多い犯罪心理学会では、必ずしも研究用に収集される訳ではない実務データを扱った研究も多い。実務データからは、探索的な分析によって現状を正確に把握したり、新たな研究仮説の手がかりを得ることができるが、その中でデータの可視化は重要な手続きとなる。データの可視化は、さまざまなデータの特徴を専門の異なる他者とも共有しやすくし、分析結果の正確な伝達にも貢献することから、研究場面に限らず、実務支援や政策実現のための意思決定場面において、エビデンスに基づいたコミュニケーションを促進するだろう。

このシンポジウムでは、データの可視化による誤謬の発見や、Rを使った具体的な可視化の方法、可視化の際の着眼点、地理的要因を含むデータの可視化等について、話題提供者の小野先生、平間先生からそれぞれ提示いただく。そして、指定討論の大江先生から、話題提供で提示された視点を受けて、矯正の領域で扱われるデータの可視化、また、可視化されたデータをどのように実務や政策に生かせるか等について議論していただく。さらに、フロアとのやりとりを行うことで、犯罪心理学会員のデータ・リテラシーを高めることに繋がりたいと考えている。

なお、本シンポジウムでは、簡単に可視化が実行できる R によるデモコードを提供しながら進めることから、R や RStudio をインストールした PC をご持参の上、参加いただくことをお勧めしたい。

矯正における効果検証のこれまでとこれから ——データ解析・アセスメント・プログラムの観点から——

企画	那須 昭洋	(矯正研修所効果検証センター)
司会	佐々木 彩子	(矯正研修所効果検証センター)
話題提供者	那須 昭洋	(矯正研修所効果検証センター)
	中村 康	(矯正研修所効果検証センター)
	齊藤 栄二	(矯正研修所効果検証センター)
	原田 杏子	(矯正研修所効果検証センター)
指定討論者	松嶋 祐子	(専修大学)

矯正における効果検証は、再犯・再非行防止に資するプログラムの開発・維持管理及びその効果を可視化するほか、再犯・再非行の可能性や処遇の必要性等を客観的・定量的に把握するアセスメントツールの開発・維持管理に主眼を置いている。

こうした取組は、刑事施設で特別改善指導が開始された平成18年から進められているが、再犯の防止等の推進に関する法律において、再犯防止等に関する施策の実施状況及びその効果を検証し、効果的な処遇の在り方に関する調査研究を推進することが明記され、令和元年には矯正研修所に効果検証センターが設立・組織化された。

効果検証センターでは、矯正局と連携し、再犯防止施策の推進、矯正行政に対する国民の理解促進につながるよう、根拠に基づく効果検証の取組が求められている。一方、矯正で効果検証を進める際、効果指標の定義や妥当性、被収容者の人権配慮を踏まえた効果検証デザインの確立と結果を導出する過程には、様々なあい路がある。

特に、拘禁刑創設に伴い、被収容者の特性に応じた処遇の充実や個別化を一層図るなど、改善更生を重視する必要性が高まっており、この点からも各被収容者の変化やその過程を重視した効果検証の在り方等を今後は検討すべきである。

このような問題意識を踏まえ、効果検証センターで勤務する話題提供者から、効果検証のこれまでの知見を踏まえた実情等について発表を行った上で、指定討論者とともに、今後の矯正における効果検証の在り方について考えていきたい。

持続可能な再犯防止支援とは

——加害者臨床におけるウェルビーイングに焦点を当てて——

企画	谷本 拓郎	(京都光華女子大学)
司会	谷本 拓郎	(京都光華女子大学)
話題提供者	樋口 雅明	(鹿児島少年鑑別所)
	小出 伸行	(岡山少年鑑別所)
	高坂 朝人	(NPO 法人再非行防止サポートセンター愛知)
	谷本 拓郎	(京都光華女子大学)
指定討論者	歳森 薫夫	(法務省矯正局)
	中馬 一登	(株式会社一)

本企画では、有効かつ持続可能な再犯防止支援について、加害者臨床におけるウェルビーイングの観点から検討する。我が国における再犯防止施策において、犯罪加害者の「良き人生 (Good Life)」に焦点を当てた長所基盤型アプローチの実現は重要な課題であり、心身の健康や幸福感が充足してこそ、非行・犯罪等の逸脱から距離を置き、前向きかつ建設的な生活スタイルを維持することが可能になる。しかしながら、罪を犯した者の改善更生に向けた支援の大部分を国が担う我が国の実状を踏まえると、より高い効果と持続可能性を備えた再犯防止策を実現するには、今後ますます産官学が協働し、柔軟かつ革新的な方策が可能な仕組みを構築することが欠かせない。そこで、本企画では、最初に、矯正実務に従事する専門家から、再犯防止及び社会適応に向けた中核的なニーズをいかにアセスメントし、必要な支援を策定・実施するかについて発表する(担当:樋口雅明氏・小出伸行氏)。次に、非営利法人という民間支援の立場から、社会内における矯正施設出所者の支援の実状を具体的に説明した上で、社会的課題について言及する(担当:高坂朝人氏)。さらに、犯罪加害者の「良き人生 (Good Life)」に焦点を当てた海外の取組について、ニュージーランドの専門プログラムを一例として紹介する(担当:谷本拓郎氏)。これらの話題提供を踏まえ、産官学の多機関連携を現に推進する立場から指定討論を行い、今後の再犯防止支援のあり方について検討する。

子どもにとって安心・安全な面会交流とは
——福山市「こどもステーション」の実践から考える——

企画	熊上 崇	(和光大学)
司会	熊上 崇	(和光大学)
話題提供者	熊上 崇	(和光大学)
	奥野 しのぶ	(NPO 法人こどもステーション)
	川内 治子	(NPO 法人こどもステーション)
	内田 朋代	(NPO 法人こどもステーション)
指定討論者	熊上 崇	(和光大学)

面会交流は、離婚・離別した別居親と未成年の子との交流である。

なぜ、面会交流を日本犯罪心理学会でとりあげるのか、それは、国内外で面会交流の際に、子どもが別居親に殺害されるケースが相次いでいるからである。

日本では、2017年兵庫県伊丹市で、DVケースにおいて家庭裁判所の調停で、面会交流を家庭裁判所から促され、面会交流の日に別居親が4歳児を殺害し、心中した事件がある。また、米国や英国では同種の事件が相当数起きており、DVケースにおいて家庭裁判所が面会交流や宿泊付面会交流を命じることで、子どもが犠牲になるケースが後をたたない。本シンポジウムでは、こうした面会交流を司法犯罪心理学的観点から国内外でどのような事例が発生し、どのような分析がなされているかを話題提供者が述べる。そのうえで、子どもと同居親の安心・安全な面会交流の実施のために先進的な取り組みを行っている福山市「こどもステーション」の実践について紹介する。「こどもステーション」では、面会交流を親の権利ではなく、子どもの権利から捉え、子どもが安心して長続きできるような取り組みを行っている。この「こどもステーション」の取り組みから、子どものための面会交流について討論したい。

口頭発表（一般）1 第1日

処遇 / 非行・犯罪観

9月14日（土） 10:00～12:00 903室

座長：菅野 哲也

- 10:00～ ○1-1 **犯罪者個人の内的な離脱プロセスを促進する方策の考察** ○ 菅野 哲也 (矯正協会矯正研究室)
- 本調査は、施設歴のある男性7人を対象に犯罪離脱に関する面接調査及びM-GTAによる分析を行い、英米の先行研究との比較を通じて、介入の可能性を探ったものである。
- 10:15～ ○1-2 **処遇共助における「コグトレ」の活用について** ○ 大崎 利奈 (高松少年鑑別所)
田村 博 (高松少年鑑別所)
久保田 耕平 (高松少年鑑別所)
- 刑務所の指導において、受刑者の多様な特性に対応し処遇の個別化を行うための一方策として、改善指導に「コグトレ」を導入し、その効果等を展望することを目的とする。
- 10:30～ ○1-3 **高齢受刑者が刑務所での体験を通して持つ社会復帰への姿勢について** ○ 湖城 孝宗 (三重刑務所)
- 本研究では、高齢受刑者の刑務所での体験を整理し、それが社会復帰への姿勢に影響するまでの過程を理解することで、彼らに対する再犯抑止に向けた処遇の在り方を検討する。
- 10:45～ ○1-4 **拘禁刑に向けた養護的処遇対象者への処遇について：フレイル予防体操の主観的効果検証を中心に** ○ 星 秀和 (福島刑務所)
高野 洋一 (福島刑務所)
渡邊 篤 (福島刑務所)
- 刑事施設において養護的処遇の一環としてフレイル予防体操を実施した。その主観的な効果を検証するとともに、拘禁刑における高齢者等の特性に応じた処遇を検討する。

- 11 : 00～ ○1-5 **矯正教育における触法障害者に対するクラウニング講座の実践的研究①：ダイバーシティ社会において「道化師」を演じることの臨床的機能**
 A 刑務所で実践されている障害を有する受刑者に対して実践されているクラウニング講座の臨床的意義について、道化師の歴史的背景を踏まえプログラムの特徴を考察する。
- 岡村 心平 (神戸学院大学心理学部)
 石田 周良 (播磨社会復帰促進センター / 株式会社小学館集英社プロダクション)
 道重 さおり (神戸学院大学心理学部)
- 11 : 15～ ○1-6 **受刑者の逆境的小児期体験と施設内適応に関する探索的研究**
 受刑者の施設内適応に関連する要因として、受刑者の逆境的小児期体験やアタッチメント・スタイル等を仮定し、質問紙による短期縦断調査を行った結果について報告する。
- 前田 将太 (さいたま少年鑑別所)
- 11 : 30～ ○1-7 **非行少年の保護者を対象としたピアグループに関する研究：参加した専門家に起きる変容の観点から**
 非行少年の保護者を対象としたピアグループに参加した少年鑑別所職員へのインタビュー調査を通して、職員の意識や専門性に対する認識にどのような影響が生じたかを検討する。
- 工藤 光恭 (さいたま少年鑑別所)
- 11 : 45～ ○1-8 **樹月カイン「性犯罪者治療プログラム体験報告」が導いたもの**
 2021 年、性犯罪の容疑で逮捕された樹月カインは、過去に性犯罪再犯防止指導を受講した経験を雑誌に発表していた。本記事を KJ 法によって読み解き、有用な仮説を導く。
- 中村 修 (川越少年刑務所 / 府中刑務所)

口頭発表（一般）2 第1日

各種犯罪・犯罪者・捜査

9月14日（土） 10:00～12:15 706室

座長：横田 賀英子

- 10:00～ ○2-1 **強姦罪により入所した受刑者の再犯率等による類型化**
強姦罪で全国の刑事施設に入所した受刑者534名を退所後3年間追跡したデータを用いて、被害者との面識の有無別の2群を比較した結果、再犯率等が大きく異なることが分かった。
- 遊間 義一（愛知大学短期大学部）
金澤 雄一郎（国際基督教大学）
- 10:15～ ○2-2 **卒業論文等で実施可能な犯罪心理学研究の一考察：非行少年の自伝分析を用いて**
公的機関に属さなくても、対象者の供述を分析する犯罪研究が可能であるか検討した。研究では、非行に関する少年の自伝等から計55名のデータを抽出し多変量解析で分析した。
- 高村 茂（四国大学）
- 10:30～ ○2-3 **性犯罪者の罪種の移行性について**
過去に検挙された性犯罪者について、複数の事件を敢行している場合の異なる罪種への移行パターンを検討した結果を報告する。
- 横田 賀英子（科学警察研究所）
平間 一樹（科学警察研究所）
大塚 祐輔（科学警察研究所）
古橋 健悟（科学警察研究所）
渡邊 和美（科学警察研究所）
- 10:45～ ○2-4 **女性受刑者の小児期逆境体験とその影響**
女性受刑者の小児期逆境体験の経験率とその後のハイリスクな行動への影響について、大規模な質問紙調査を実施し、男性受刑者等との比較から探索的に検討した。
- 金網 祐香（法務総合研究所）
田中 梨子（法務総合研究所）

- 11 : 00～ ○2-5 **異文化背景を持つ若年犯罪者の社会統合に向けた検討**
- 本発表では、異文化背景を持つ保護観察若年対象者と少年院在院者を対象に行った定量的調査について報告を行い、予防策の策定を視野に入れ、犯罪化の要因について検討する。
- 讃井 知 (上智大学)
 小長井 賀與 (信州大学)
 川邊 讓 (駿河台大学)
 須藤 明 (文教大学)
- 11 : 15～ ○2-6 **女性万引き犯の行動の一貫性**
- 女性犯罪者の多くが万引きで検挙されており、万引き検挙者の多くを女性が占めている。プロファイリングの文脈から、女性に特徴的な万引きの行動の一貫性について検討する。
- 渡邊 和美 (科学警察研究所)
 平間 一樹 (科学警察研究所)
 横田 賀英子 (科学警察研究所)
 大塚 祐輔 (科学警察研究所)
 古橋 健悟 (科学警察研究所)
- 11 : 30～ ○2-7 **特殊詐欺の受け子・出し子に至る心理過程の分析**
- 本研究は、受刑中の初入男性受刑者を対象に、受け子・出し子に至る心理過程についてインタビュー調査を行い、複線経路等至性アプローチの手法により分析した。その結果を報告する。
- 真鍋 貴大 (松山刑務所)
 清水 翼 (松山刑務所)
 野口 剛 (松山刑務所)
 小林 佳世子 (南山大学経済学部経済学科)
 道重 さおり (神戸学院大学心理学部心理学科)
 本西 泰三 (関西大学経済学部経済学科)
 高野 洋一 (松山刑務所)
- 11 : 45～ ○2-8 **少年院在院者を対象とした調査から見てきた闇バイトの実態**
- 昨年8月にNHKと全国の少年院在院者を対象とした闇バイトに関する質問紙調査を実施した。少年たちがなぜ闇バイトに加担したのか、闇バイトと少年たちとの関係を考察する。
- 濱井 浩一 (龍谷大学)

- 12 : 00～ ○2-9 **自己抑制とストーキング関連行動の
関係について**
- 自己抑制とストーカー行為との関連は人種
によって異なる結果が示されている。本研究
は、自己抑制と甘えに着目し、日本における
ストーカー関連行動との関連を検討する。
- 辻浦 智榮美 (国際医療福祉大学大学
院)
- 小島 秀吾 (国際医療福祉大学大学
院)

口頭発表（一般）3 第1日

防犯・被害・地域 / 査定・評価

9月14日（土） 10:00~12:00 402室

座長：森 丈弓

- | | | | |
|--------|--|---|---|
| 10:00~ | ○3-1 防護動機理論に基づいた防犯行動の変容
大学生を対象に、防護動機理論に基づく情報提示による防犯行動の変容について調査を行った。また犯罪被害経験が防犯行動に及ぼす影響について検討した。 | ○ 佐光 未帆
原田 隆之 | (筑波大学大学院)
(筑波大学) |
| 10:15~ | ○3-2 集合的効力感は IPV 被害時の介入期待を上げるのか、開示のハードルを下げるのか
夫婦ペアデータに基づき、地域の集合的効力感が、親密な関係における暴力 (IPV) 生起時の他者からの介入期待と、他者への開示の抑制に与える影響について報告する。 | ○ 相馬 敏彦 | (広島大学) |
| 10:30~ | ○3-3 機械学習による再犯予測：The Limited Value of Machine Learning Approach to Improving Predictive Performance: MJCA
機械学習の各種手法を使うことにより再犯予測力を向上させることが可能か否か、法務省式ケースアセスメントツール (MJCA) を用いて検証した。Mori, Harada, Yamaki, & Yamaguchi (2024) に沿って解説する。 | ○ 森 丈弓
原田 杏子
山木 麻由子
山口 雅敏
服部 真人 | (甲南女子大学)
(法務省矯正研修所効果検証センター)
(法務省静岡少年鑑別所)
(法務省東京拘置所)
(法務省矯正局少年矯正課) |
| 10:45~ | ○3-4 離脱研究とRNRモデルとの実践的統合の試み(2)
非行・犯罪からの離脱及び RNR 原則に関する研究を概観し、それらの知見を統合した海外のアセスメント・ツールの内容を踏まえた上で、この二つの立場の統合に向けた課題を考察する。 | ○ 林 秋成 | (新潟刑務所) |

- 11 : 00～ ○3-5 検察庁の入口支援における法務少年支援センターが行う心理検査の実施に関する考察：効果的なアセスメントに資する検査結果の活用について
- 本研究では、入口支援のための心理検査の実施について、どのようなニーズがあるのか検察官や関係機関職員にアンケート調査を行うなどし、検査結果の活用について考察する。
- 元吉 誠 (高知少年鑑別所)
寺西 晶 (高知少年鑑別所)
上田 眞之 (高知少年鑑別所)
- 11 : 15～ ○3-6 矯正施設釈放者の再犯リスク管理とウェルビーイングの保障に資するアセスメントについて
- 矯正施設釈放者の再犯リスク管理とウェルビーイングの保障に資するアセスメントについて、海外の刑事司法と保健医療分野との連携や社会的処方取組等を参照しつつ、展望する。
- 小林 万洋 (長野大学社会福祉学部)

口頭発表（事例）1 第1日

9月14日（土） 10：00～12：00 403室

座長：熊上 崇

- 10：00～ ○4-1 **非行臨床におけるハンドテストを用いた協働的アセスメント**
非行少年事例を対象としたハンドテストを用いた協働的アセスメントの実施法を提案し、事例検討を行う。その有用性と、非行からの立ち直りを目指した動機づけ面接との共通点を考察する。
- 川口 拓馬 （広島家庭裁判所呉支部）
佐々木 裕子 （自治医科大学医学部総合教育心理学）
- 10：30～ ○4-2 **少年の裁判員裁判における情状鑑定事例**
少年法20条2項により裁判員裁判となった事例において、情状鑑定人として心理アセスメントを行い、公判廷で裁判員にプレゼンテーションをしたケースについて報告する。
- 熊上 崇 （和光大学）
- 11：00～ ○4-3 **障害を有する受刑者への集団音楽療法における臨床的変化の検討**
障害を有する受刑者を対象とした音楽を媒介とした集団芸術療法において、リクエスト曲の演奏や音楽にちなんだ語りから、臨床的変化が見られた事例について、探索的に検討する。
- 松本 佳久子 （武庫川女子大学）
松元 雅子 （神戸刑務所）
- 11：30～ ○4-4 **加害者がコミュニティに帰る時**
加害者が元いたコミュニティに帰る時に生じる加害者自身の心的状態、コミュニティの反応、それに応じた求められる介入について、心理療法の過程をもとに発表する。
- 工藤 晋平 （名古屋大学）

ポスター発表 1 第 1 日

処遇 / 査定・評価 / 各種犯罪・犯罪者・捜査

9月14日(土) 10:00~12:00 802室

処遇

- P1-1 ○ **刑務所職員のバーンアウト：医療・福祉・教育分野との比較** ○ 白岩 祐子 (埼玉県立大学)
今城 志保 (リクルートマネジメントソリューションズ)
刑務官と教育・調査・作業専門官のバーンアウト得点を、看護師・介護福祉士・教師と比較した。さらに、バーンアウト3因子と離職意思を規定する職場の環境要因を検討した。 安部 尚子 (加古川刑務所)
篠山 義郎 (加古川刑務所)
須藤 隆行 (貴船原少女苑)
- P1-2 ○ **社会復帰支援指導が受刑者の援助要請態度に与える影響** ○ 神垣 一規 (大阪経済大学)
刑務所での社会復帰支援指導受講者に対してインタビュー調査を実施し、指導による影響を援助要請の観点から検討した。
- P1-3 ○ **薬物事犯保護観察対象者の家族に対する保護観察官の関わりの変容プロセス** ○ 有野 雄大 (東京拘置所)
保護観察官は、薬物事犯者本人だけでなく、その家族も支援する。保護観察官としての経験を積み、家族との関わりが変容し、本人への関わりにも影響していくプロセスを報告する。
- P1-4 ○ **性犯罪加害者に対するコミュニティ内治療の効果について** ○ 堀切 大器 (性障害専門医療センター(SOMEK))
性犯罪加害者に対するコミュニティ内でのグループ認知行動療法の効果を検証するために、治療を辞退した者を統制群として調査を行い、交互作用の有無を検討した。

- P1-5 ○ **刑事施設における「被害者の視点を取り入れた教育」の効果検証**
喜連川及び播磨社会復帰促進センターにおいて、生命犯を対象として実施した、被害者心情や被害者に対する誠意を持った対応等を考えるプログラムの効果を検証し、報告する。
- 永井 智 (立正大学)
○ 神山 和也 (喜連川社会復帰促進センター / 株式会社小学館集英社プロダクション)
○ 石田 周良 (播磨社会復帰促進センター / 株式会社小学館集英社プロダクション)
- P1-6 ○ **グループ・プログラム導入時に見られる性犯罪加害者の攻撃性表出の適応的機能：テキストマイニングを用いた逐語記録の分析から**
性犯罪加害者を対象としたグループ・プログラムにおいて表出された攻撃性の適応的機能について、体験過程の評定とテキストマイニングによる逐語記録の分析を通じて検討を行った。
- 田岡 未里 (京都橘大学大学院)
○ ジェイムス (京都橘大学)
○ 朋子
- P1-7 ○ **性犯罪者を対象としたグループ・プログラムにおける心的安全空間の変容に関する言語的行動に着目した検討：テキストマイニングを用いた逐語記録の分析から**
性犯罪加害者を対象としたグループ・プログラムの逐語記録と心的安全空間尺度の得点を分析し、グループ成員の言語的行動の表出と心的安全空間の体験の関連性について検討した。
- 吉川 寛 (京都橘大学大学院)
○ ジェイムス (京都橘大学)
○ 朋子
- P1-8 ○ **非行少年への働きかけについての考察：児童自立支援施設で実施したグループワークでみられた入所児童の変化をもとに**
グループワークに参加した児童が語った「今の気持ち」をテキスト分析し、明らかになった彼らの感情表現の変化をふまえ、非行少年への働きかけについて考察する。
- 三垣 明子 (神戸家庭裁判所)

P1-9	<p>○ 新採用矯正職員の仕事に対する価値観と動機づけに関する検討</p> <p>現場施設で実務に当たる前の新採用矯正職員を対象にアンケート調査を行い、仕事に対する価値観と動機づけについて検討し、職員育成や働きやすい職場づくりに係る示唆を得る。</p>	<p>○ 林 桜子 (矯正研修所効果検証センター)</p> <p>九里 真緒 (矯正研修所効果検証センター)</p> <p>満石 花歩 (さいたま少年鑑別所)</p> <p>平澤 琴乃 (さいたま少年鑑別所)</p>
P1-10	<p>○ 性犯罪における再犯と認知行動療法の関連に関する研究動向と課題</p> <p>性犯罪者に対する再犯防止を目的とした認知行動療法の先行研究を概観し、その効果性と再犯防止プログラムの今後の展望について検討することを目的とする。</p>	<p>○ 宇佐見 理紗 (早稲田大学大学院人間科学研究科)</p> <p>西中 宏史 (早稲田大学大学院人間科学学術院)</p> <p>嶋田 洋徳 (早稲田大学大学院人間科学学術院)</p>
P1-11	<p>○ 累犯刑務所における性犯罪者の再犯の経路 (3)「知的制約」を有する対象者の分析</p> <p>累犯刑務所における「知的制約」を有する者への性犯罪再犯防止指導の効果を高めることを目的として、セルフ・レギュレーション・モデルを用いて再犯の過程等を分析した。</p>	<p>○ 平野 貴子 (府中刑務所)</p>
査定・評価		
P1-12	<p>○ TAT に関する文献展望～分析・解釈に関して②</p> <p>前年度に引き続き、心理検査(投影法)の一つである TAT に関して、文献及び先行研究の知見の整理及び集積を行い、TAT の解釈や活用の可能性について検討を行う。</p>	<p>○ 中島 賢 (名古屋刑務所)</p> <p>武藤 遥子 (広島矯正管区)</p> <p>鈴谷 真美 (矯正研修所効果検証センター)</p> <p>林 桜子 (矯正研修所効果検証センター)</p> <p>白方 斎来 (広島少年鑑別所)</p>
P1-13	<p>○ リスクアセスメントツールを用いた性犯罪者の分類と臨床的理解</p> <p>成人性犯罪者用リスクアセスメントツール SVR-20 を用いて、性犯罪受刑者のタイプ分けを行い、臨床的な解釈可能性を検討した。</p>	<p>○ 松元 雅子 (神戸刑務所)</p> <p>森 丈弓 (甲南女子大学)</p>

- P1-14 ○ **認知行動療法におけるマインドフルネスの臨床的効果に関する記述的検討** ○ 三住 倫生 (多摩少年院)
- 本研究では、心理臨床的問題の解決の際にマインドフルネスの技法の運用によってもたらされる対象者の臨床的特徴や具体的な変化を記述的に検討することを目的とした。
- P1-15 ○ **心理的痛みの表現語の選定とその評価** ○ 伊藤 みなみ (追手門学院大学大学院)
増井 啓太 (追手門学院大学)
- 本研究では、予備調査として心理的痛みの場面毎に表現語の選定を行い、本調査では、その表現語の強度を評価する。そして、心理的痛みの場面毎で表現語の図式化を行う。
- P1-16 ○ **非行少年と地域の青少年の非自殺性自傷行為の態様の比較検討** ○ 高橋 哲 (お茶の水女子大学)
今原 かすみ (大阪少年鑑別所)
宮本 悠起子 (名古屋少年鑑別所)
明星 佳世子 (京都少年鑑別所)
安田 美智子 (大阪刑務所)
門本 泉 (大正大学)
- 非自殺性自傷行為の態様等に関する質問紙調査の結果をもとに、少年鑑別所在所者と地域の青少年との対比の観点から検討を行う。
- P1-17 ○ **少年鑑別所の在所者が語る自傷行為の理解と対応策** ○ 今原 かすみ (大阪少年鑑別所)
安田 美智子 (大阪刑務所)
宮本 悠起子 (名古屋少年鑑別所)
明星 佳世子 (京都少年鑑別所)
高橋 哲 (お茶の水女子大学)
門本 泉 (大正大学)
- 非自殺性自傷行為の態様等に関する質問紙調査の結果をもとに、少年鑑別所在所者が考える自傷行為の理解と対応策について検討を行う。
- P1-18 ○ **素行症及び反抗挑発症と知能、性格、態度との関連** ○ 瀧上 康幸 (京都少年鑑別所)
三浦 英之 (京都少年鑑別所)
- 素行症及び反抗挑発症の予防と重症化の防止に資する着眼点を得るため、少年鑑別所在所者を対象に自記式質問紙調査を実施し、知能、性格、態度との関連を定量的に検討した。

- P1-19 ○ **非行少年の報酬への感受性と再入との関連**
遅延及び確率価値割引課題、B I S / B A S 尺度を使用して、非行少年の報酬に対する反応性の特徴と、少年鑑別所への再入との関連を明らかにすることを目的とする。
- 片桐 弘明 (東京拘置所)
今村 悟也 (東京矯正管区)
木下 智尋 (神戸少年鑑別所)
- P1-20 ○ **保護者アンケートから見る非行少年の特徴について**
被観護在所者の保護者向けにアンケートを実施しているところ、その回収率や記載内容について、被観護在所者の特性等との関連を調査する。
- 西尾 昌哉 (神戸少年鑑別所)
木下 智尋 (神戸少年鑑別所)
廣田 夏帆 (神戸少年鑑別所)
石丸 素史 (神戸少年鑑別所)
- P1-21 ○ **ダークトライアドとレジリエンスの関係に対してナルシズムが与える影響**
ナルシズムの肯定的側面がサイコパシー、マキャベリアニズムとレジリエンスの関係に与える影響を検討するために 148 名の大学生を対象に WEB 調査を行った結果を報告する。
- 高田 侑杜 (常磐大学大学院)

各種犯罪・犯罪者・捜査

- P1-22 ○ **わいせつ目的事件の事件リンク分析：時空間情報の効果**
わいせつ目的事件について罪種横断的な事件リンク分析法の検討を行った。前報での犯行行動に、時空間情報を追加した効果について分析を行った。
- 大塚 朋美 (神奈川県警察本部科捜研)
- P1-23 ○ **日本の連続殺人の性差：男女の連続殺人犯の比較と類型**
日本の連続殺人事件において、犯人の性別によって犯行形態や犯人や被害者の属性が変わるのかについて調査を行った。また、男女の犯人による連続殺人事件の類型を行った。
- 岸川 礼依 (法政大学)

- P1-24 ○ **女性犯罪の特徴：被害体験のある女性暴力犯に焦点を当てて**
 国内外の先行研究をレビューし女性犯罪の特徴を整理した上で、被害体験を有する女性暴力事犯者が犯罪に至る過程に関する先行研究を考察し、今後の研究の方向性を検討する。
- 神藤 彩子 (杉並区杉並子ども家庭支援センター)
 門本 泉 (大正大学)
 金澤 雄一郎 (国際基督教大学)
- P1-25 ○ **報酬感受性が重要な他者への攻撃行動に及ぼす影響の記述的検討**
 暴言・暴力経験のある成人が、暴言・暴力経験のない成人と比較して、報酬感受性が低いことを明らかにすることを目的とし、質問紙調査を行った。
- 五十嵐 里奈 (北里大学大学院医療系研究科)
 野村 和孝 (北里大学医療衛生学部)
 村瀬 華子 (北里大学医療衛生学部)
- P1-26 ○ **受刑者の加害者態度 (2)**
 財産犯、性犯及び生命犯の3群に対し、「犯行と加害」、「被害者とその家族」、「謝罪と被害弁償」及び「被害者支援と被害者視点教育」という下位態度の観点から調査し、考察した。
- 關崎 勉 (函館少年刑務所)
- P1-27 ○ **女子大学生の対人不安と攻撃性が他者に対する印象形成に与える影響について**
 他者への印象を決定する過程の中でバイアスやエラーがあると、必要以上に悪い印象を抱き、ひいては攻撃行動へつながる。バイアスの原因としていくつかの性格特性に着目し、検討する。
- 猪狩 茜音 (奈良女子大学大学院)
 岡本 英生 (奈良女子大学大学院)
- P1-28 ○ **目撃者取調べにおけるアバターの有効性の検討**
 本研究では、アバターを用いた証言聴取の有効性を検討することを目的として、記憶内容や取調べ時の印象について実験的に検討を行った。
- 中田 友貴 (立命館大学)

- P1-29 ○ **違法ギャンブル行動の維持に関する展望** ○ 松本 優 (早稲田大学大学院)
 近年では、ギャンブル行動への従事が犯罪行為につながる可能性があることが懸念されている。本研究では、違法性を伴うギャンブル行動の維持について検討することを目的とする。
- P1-30 ○ **知的障害や発達障害を有した性犯罪者の認知行動論的理解** ○ 黒田 翔子 (早稲田大学大学院)
 近年、性犯罪者処遇における発達障害に対する検討が必要とされている。本研究では、発達障害を有する性犯罪者処遇について先行研究から、内容を整理することを目的とする。
- P1-31 ○ **反応時間による隠匿情報検査の判定基準に関する検討** ○ 水師 葉月 (福山大学 / 広島修道大学大学院)
 本研究では反応時間による隠匿情報検査(RT-CIT)の実現可能性を検討するために、実験により得られた複数のパラメータから RT-CIT の判定基準を試験的に策定し、その効果を比較検討した。

口頭発表（事例）2 第2日

9月15日（日） 10:00～12:00 403室

座長：山岡 あゆち

- | | | | |
|--------|--|--------------------------------|--|
| 10:00～ | ○6-1 いじめ加害体験者の対人関係の持ち方の変化（1）
過去にいじめの加害行為に該当する可能性がある行為経験を報告した者に合計3回のインタビュー調査を実施し、現在向けての対人関係の持ち方の変化について分析した。 | ○ 山岡 あゆち
鍋島 宏之 | （東京大学）
（奈良少年鑑別所） |
| 10:30～ | ○6-2 いじめ加害体験者の対人関係の持ち方の変化（2）
過去にいじめの加害行為に該当する可能性がある行為経験を報告した大学生に合計3回のインタビュー調査を実施し、現在向けての対人関係の持ち方の変化について分析した。 | ○ 鍋島 宏之
山岡 あゆち | （奈良少年鑑別所）
（東京大学） |
| 11:00～ | ○6-3 矯正教育における触法障害者に対するクラウニング講座の実践的研究②：事例検討による抵抗から受容の過程と効果的実践への探究
A 刑務所のクラウニング講座受講者の事例を用いて、受講を経て変化した障害受容による将来設計への波及効果について報告し、本講座の機能的運用について検討する。 | ○ 石田 周良

岡村 心平
道重 さおり | （播磨社会復帰促進センター / 株式会社小学館集英社プロダクション）

（神戸学院大学）
（神戸学院大学） |
| 11:30～ | ○6-4 放火を行った女子学生の火に込められた心情の考察とコラージュを用いた心理療法
本研究では、放火事件を起こした女子学生が葛藤を火や刃物に向けていく心理的過程とコラージュを用いた心理療法、及び自己実現に向けた4年間の心理面接の経過を検討する。 | ○ 中村 大輔 | （神戸臨床心理カウンセリングルーム研心音 / 兵庫県議会議員） |

ポスター発表 2 第 2 日

非行・犯罪観 / 防犯・被害・地域

9月15日(日) 10:00~12:00 802室

非行・犯罪観

- P2-1 ○ **家庭機能と中高生暴力行為の関係：道徳不活性化の媒介効果** ○ 尹 晧佳 (関西大学大学院心理学研究科)
藤田 政博 (関西大学社会学部)
本研究では、家庭機能、道徳不活性化レベル及び中学生暴力行為の現状を検討し、家庭機能及び中学生校内暴力行為の間における道徳不活性化レベルの媒介効果を深く分析した。
- P2-2 ○ **中国人におけるインターネット上のセクシュアルハラスメントに対する認識と態度について** ○ 汪 楽琳 (東洋大学)
本研究は中国人のインターネット上のセクシュアルハラスメントに対する認識、優越感とネットセクハラに対する許容度の関連性を調べるものである。
- P2-3 ○ **大学生における少年事件に対する原因帰属と感情が更生支援意欲へ及ぼす影響について** ○ 大野 ひみの (専修大学大学院)
松嶋 祐子 (専修大学)
本研究では、人々の非行少年に対する更生支援意欲の生起要因を見出すために、大学生に質問紙調査を実施し、原因帰属と感情の要因から更生支援意欲との関連を検討した。
- P2-4 ○ **コーピングの柔軟性が非行からの立ち直りに及ぼす影響** ○ 河野 莊子 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科)
岡本 英生 (奈良女子大学生生活環境科学系)
小島 朱理 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科)
ストレスにさらされた時、状況に応じて、より適切なコーピングを取捨選択できることは、適応的に生活していく上で重要であろう。コーピングの柔軟性が非行からの立ち直りに及ぼす影響を検討する。

- P2-5 ○ **女性の特殊詐欺事犯者に関する考察** ○ 高橋 典子 (福島刑務支所)
 刑事施設に収容中の女性特殊詐欺事犯者について、犯罪の要因やその背景を探り、今後の処遇の在り方について検討する。 高野 洋一 (福島刑務所)
 星 秀和 (福島刑務所)
- P2-6 ○ **ASD 児をもつ親の被害および非行不安** ○ 工藤 さくら (久留米大学大学院)
 ASD 児をもつ親の被害および非行不安を測定した結果、重大犯罪に近い内容ほど被害および非行不安が低く、軽犯罪に近い内容ほど被害および非行不安が高い可能性が想定される。
- P2-7 ○ **鑑別において実務上指摘される少年の問題点についての探索的研究(1)：時間的経過による変化について** ○ 三浦 公士 (和歌山少年鑑別所)
 鑑別でどのような問題点がどのような頻度で指摘されているのかを明らかにするとともに、指摘される問題点に、時間的な変化があるのかについて、探索的に研究する。 倉迫 悠 (和歌山少年鑑別所)
 楠瀬 拓紀 (和歌山少年鑑別所)
- P2-8 ○ **わが国における現代版ミルグラム実験の再現性：他者からの強制による行為主体感の喪失** ○ 河合 亮哉 (東海学院大学大学院)
 本研究では、現代版ミルグラム実験 (Caspar et al., 2016) の再現性を性差を含めて検討した。その結果、本邦においても再現性は確認され、性差は概ねみられなかった。 中谷 智美 (甲南大学大学院)
 福井 義一 (甲南大学)
 大浦 真一 (東海学院大学)
- P2-9 ○ **鑑別において実務上指摘される少年の問題点についての探索的研究(2)：非行類型別の特徴について** ○ 倉迫 悠 (和歌山少年鑑別所)
 鑑別で指摘される問題点について、非行類型別に出現頻度に特徴が見られるのかどうか、探索的に研究する。 三浦 公士 (和歌山少年鑑別所)
 楠瀬 拓紀 (和歌山少年鑑別所)

- P2-10 ○ **非行からの立ち直りプロセスにおける時間的展望の変化についての検討：元非行少年の自伝・手記に基づく研究** ○ 関 嵐月 (奈良女子大学大学院)
- 本研究は立ち直った個人の手記や自伝を用い、立ち直りのプロセスにおいて時間的展望の変化の共通様式を特定した上、時間的展望セラピーを参考にして立ち直りを促進する介入法を考案する。
- P2-11 ○ **非行少年及び若年受刑者の特性的自己効力感について（3）** ○ 稲葉 凌太郎 (宇都宮少年鑑別所)
- 再非行及び再犯防止を予測する指標として、特性的自己効力感に着目し、少年刑務所、少年院及び少年鑑別所の入所者について、それぞれの特徴を比較・検討する。
- 松田 慎之介 (静岡少年鑑別所)
- 松原 悠平 (静岡少年鑑別所)
- 古川 雄万 (多摩少年院)
- 南 卓志 (松本少年刑務所)
- P2-12 ○ **10代のインターネット使用と問題に関する基礎研究Ⅰ：一般少年と非行少年の比較から** ○ 西野 優花 (名古屋少年鑑別所)
- 近年の子どもたちのスマートフォンやインターネットの使用状況に係る実態調査を行い、インターネット等が関係する非行をはじめとした問題行動につながる要素を考察する。
- 反中 亜弓 (名古屋少年鑑別所)
- 森川 理奈 (名古屋少年鑑別所)
- 栗田 智樹 (名古屋少年鑑別所)
- 鹿島 有歌里 (名古屋少年鑑別所)
- 宮本 悠起子 (名古屋少年鑑別所)
- 池村 寛之 (名古屋少年鑑別所)
- 中島 啓之 (名古屋少年鑑別所)
- P2-13 ○ **10代のインターネット使用と問題に関する基礎研究Ⅱ：保護者との約束と養育態度** ○ 反中 亜弓 (名古屋少年鑑別所)
- 近年、インターネットや SNS が関係する非行・問題行動が後を絶たないことから、SNS等のインターネット使用に関する親子間の約束や教育が、子供たちのインターネット使用にどのような影響を与えているのかを考察する。
- 西野 優花 (名古屋少年鑑別所)
- 岡田 奈那美 (名古屋少年鑑別所)
- 福富 克哉 (名古屋少年鑑別所)
- 鹿島 有歌里 (名古屋少年鑑別所)
- 栗田 智樹 (名古屋少年鑑別所)
- 池村 寛之 (名古屋少年鑑別所)

- P2-14 ○ **女子大学生から見る犯罪のグレーゾーン：フォーカスグループインタビューによる質的分析の知見から** ○ 楊 夢 (日本女子大学大学院)
岡本 吉生 (日本女子大学)
- 本研究は、女子大学生を対象に実施したフォーカスグループインタビューによって犯罪のグレーゾーンの実態や構造を明らかにしようとしたものである。
- P2-15 ○ **ギャンブラーはセルフコントロールが苦手か？日本人を対象としたWEB調査による検討** ○ 高田 琢弘 (労働安全衛生総合研究所)
- 本研究では 200 名の日本人を対象としたWEB 調査を実施し、ギャンブル障害傾向とセルフコントロールの関連を検討した。分析の結果、両者の間に有意な負の相関が示された。
- P2-16 ○ **性犯罪の被害者の性別による非難，社会的ネガティブ反応，量刑の差** ○ 向井 智哉 (福山大学)
- 性犯罪を対象とし、被害者の性別によって非難やネガティブ反応に加え、加害者に対する量刑に差が生じるのかを検討した。その結果、各変数に有意な差は見受けられなかった。

防犯・被害・地域

- P2-17 ○ **個人属性および楽観性バイアスがリスク認知に与える影響の検討** ○ 蘇 雨青 (東洋大学大学院社会心理学専攻)
桐生 正幸 (東洋大学)
- 本研究では、犯罪リスク認知に与える影響要因を調査した。その結果、性別、年齢、楽観性バイアス得点と犯罪リスク認知の関連性を確認し、罪種別に有意な違いがあった。

- P2-18 ○ **地域と連携した防犯教育プログラムの開発と効果検証：防犯アプリを活用した小学校における防犯教育の実践**
 ○ 大久保 智生 (香川大学)
 本研究では地域と連携した防犯教育プログラムを開発し、小学校で防犯アプリを活用した実践を行った。その結果、防犯に関する能力と防犯意識が向上することが示された。
- P2-19 ○ **再非行防止における支援情報の提示法と犯罪不安が一般市民の支援意識に及ぼす影響：大学生を対象とした調査研究**
 ○ 勝間田 真愛 (北里大学大学院医療系研究科)
 五十嵐 里奈 (北里大学大学院医療系研究科)
 田中 佑樹 (和洋女子大学)
 村瀬 華子 (北里大学医療衛生学部)
 野村 和孝 (北里大学医療衛生学部)
 市民の非行少年への支援意識の向上にあたり、事例を使用したポスターと統計を使用したポスターの提示効果の差を調査した。また、犯罪不安が及ぼす影響を検討した。
- P2-20 ○ **高齢者の見守りに及ぼす地域の居場所の特徴**
 ○ 森 裕樹 (東京都健康長寿医療センター研究所)
 本研究では、他者との交流が見られる地域の拠点を居場所と定義し、その運営者に対するインタビュー調査の結果をもとに、高齢者の見守りを促す要因について検討した。
- P2-21 ○ **再確認傾向とDVにおける性差の分析**
 ○ 水戸 有希 (法政大学)
 越智 啓太 (法政大学)
 再確認傾向とDVとの関連における性差の影響を検討し、分析の結果、男性の方が再確認傾向が高いとDVの被害や加害を知覚しやすいことが示唆された。
- P2-22 ○ **犯罪等の被害経験が女性の心身に与える影響および回復を促す支援・対応の検討**
 ○ 雨霧 旭穂 (奈良女子大学大学院)
 女子大学生・大学院生を対象に犯罪等の被害経験が心身の健康に与える影響や被害後に受けた支援の効果等について、アンケート調査およびインタビュー調査を実施し検討する。

- P2-23 ○ **女子大学生における犯罪不安と防犯対策の季節変動** ○ 米丸 愛里 (福山大学大学院)
- 本研究では犯罪被害リスクを高く知覚すると思われる女子大生を対象に、独自で作成した質問紙を基に季節ごとに犯罪不安や、それに伴う防犯意識に変化が現れるのか検討した。
- P2-24 ○ **養育態度が動物への態度に及ぼす影響：体験による感情を媒介として** ○ 高瀬 小澄 (奈良女子大学大学院)
岡本 英生 (奈良女子大学)
- 養育態度が、動物への接触経験の有無、また動物がもたらす情動の認知にどのような影響を及ぼすのかを明らかにし、それらが、動物への態度にも影響しているのかを検討する。
- P2-25 ○ **小学校低学年児童を対象とした性暴力防止教室の効果** ○ 小暮 陽介 (富山県警察)
窪野 ひとみ (富山県警察)
佐々木 貴志 (富山県警察)
鈴木 拓朗 (富山大学)
直原 康光 (大阪大学大学院)
- 本研究は小学校低学年児童に性暴力防止教室を実施し、その効果を検証した。その結果、プライベートゾーンの場所等の知識だけでなく侵害対処の知識及び自己効力感の獲得に効果が認められた。
- P2-26 ○ **交際相手によるデート暴力(束縛)に対する被害者の対処類型の特徴** ○ 笹竹 英穂 (至学館大学)
- 交際相手から束縛された被害者の対処を類型ごとに分類した。その結果、話し合う対処が多かったが、逆に束縛する対処や、応じる振りをする対処も多いことが示された。
- P2-27 ○ **性被害の開示を受けた第三者の認知や反応に関する探索的研究** ○ 松嶋 祐子 (専修大学)
佐々木 彩子 (矯正研修所効果検証センター)
- 性被害の開示を受けた第三者が、その被害や被害者についてどのように認知し、反応するか、予備的な研究を行う。

- P2-28 ○ **フィッシング詐欺とショッピング詐欺の被害防止要因の検討：警察の相談記録を用いた分析** ○ 皿谷 陽子 (人間環境大学)
西木 貴美子 (人間環境大学)
- 警察に寄せられた相談記録データを用い、フィッシング詐欺、ショッピング詐欺の被害防止要因の検討を目的とした。データを既遂と未遂とに分類し、探索的に分析を行った。
- P2-29 ○ **特殊詐欺の被害実態と対策の効果検証** ○ 島田 貴仁 (科学警察研究所)
- 特殊詐欺は社会にとって大きな課題になっている。その被害実態と対策の普及について1都道府県の圏域を対象として、業務記録の分析と一般市民調査を行った。

日本犯罪心理学会賛助会員・寄付団体御芳名

※50音順

公益財団法人 矯正協会

公益財団法人 日工組社会安全研究財団

日本犯罪心理学会第62回大会賛助団体御芳名

※50音順

株式会社 明石書店

株式会社 北大路書房

株式会社 クリエーションアカデミー（メルコム）

株式会社 クロス・マーケティング

株式会社 現代人文社

株式会社 金剛出版

サクセス・ベル株式会社

株式会社 誠信書房

株式会社 ミユキ技研

本大会を開催するにあたり、上記の機関・企業より多大なご支援をいただきました。

ここにその御芳名を記して、心から感謝の意を表します。

2024年7月

日本犯罪心理学会第62回大会準備委員長

平 伸二

日本犯罪心理学会第 62 回大会準備委員会

※50 音順

委員長	平 伸二	(福山大学)		
副委員長	大杉 朱美	(福山大学)		
委員	赤澤 淳子	(福山大学)	伊藤 可奈子	(広島県警察本部)
	川田 幸司	(法務省広島矯正管区)	記谷 康之	(福山大学)
	反田 智之	(福山大学)	中島 学	(福山大学)
	濱本 有希	(山形大学)	水師 葉月	(福山大学)
	向井 智哉	(福山大学)		

日本犯罪心理学会第 62 回大会プログラム

主催：日本犯罪心理学会

発行日：2024 年 7 月

発行者：〒729-0292 広島県福山市東村町字三蔵 985-1

福山大学人間文化学部心理学科 平伸二研究室内

日本犯罪心理学会第 62 回大会準備委員会

生体信号収録装置

Polymate Pro MP6000/MP6100

進化したPolymate Pro誕生！
DCアンプとアクティブ電極で広がる生体計測の可能性

多用途型のMP6000と21ch脳波測定型のMP6100の2種類
どちらも有線・無線・携帯の3Way方式の収録
新たに開発したSENSOR端子で、センサのタイプや個数などを自由に設定できます。

■ Polymate Pro MP6000 (ポリプロ6000)



●最大24chのポリグラフ測定が可能。

製品仕様

最大測定収録チャンネル数	24
多用途入力	13ch
SENSOR	5ch
Pulse	1ch
AUX (専用入力)	3ch
EXT (外部入力)	2ch
最大サンプリング周波数	2000Hz

■ Polymate Pro MP6100 (ポリプロ6100)



●最大21chの脳波測定が可能。

※キャップはオプションです。

製品仕様

最大測定収録チャンネル数	24
多用途入力	21ch
SENSOR	3ch
最大サンプリング周波数	2000Hz

開発元

 株式会社 ミユキ技研

〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目18番14号 本郷ダイヤビル 6階
TEL. 03(3818)8631 FAX. 03(3818)8632

<http://www.miyuki-net.co.jp/>

2025年度 研究助成の募集

<助成対象分野>

少年非行防止対策、子ども・少年・女性・高齢者を対象とする犯罪等の防止対策、組織犯罪対策、薬物銃器犯罪対策、犯罪の国際化への対策、犯罪被害者支援対策、マイノリティ・マジョリティの安全安心な共生のための対策等、社会安全問題に関する社会科学の研究を主として助成の対象といたします。

助成種別	助成の対象	1件当たりの助成上限額
一般研究助成	個人、またはグループによる研究	300万円
若手研究助成	40歳以下の個人研究	100万円

募集開始が2ヶ月早くなりました！

募集期間:2024年9月1日(日)~同11月30日(土)

決定時期:2025年3月上旬

助成期間:2025年4月から2026年9月30日までの1年半

募集に関する詳細、助成件数、採択研究課題等過去の実績は、当財団ウェブサイトをご覧ください。

社安研

検索



公益財団法人 にっこうそ 日工組社会安全研究財団

東京都千代田区内神田 1-7-8 大手町佐野ビル 6階

TEL:03-3219-5177

特殊詐欺の心理学 [近刊]

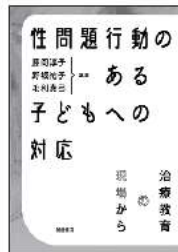
越智啓太 編集代表

桐生正幸・原田知佳・島田貴仁 編集

特殊詐欺に関する最先端の知見を、自治体、警察、金融機関、司法関係者そして一般市民に向け平易に解説した書。特殊詐欺の仕組みや、防犯最前線の事例や現場で活かせるヒントが満載の価値ある内容となっている。

性問題行動のある子どもへの対応

[治療教育の現場から] 藤岡淳子・野坂祐子・毛利真弓 編著 児童福祉機関における性問題行動への治療教育プログラムの実践を振り返りつつ、理論的な基礎から臨床上のコツまで、具体的に論じる。 [2970 円]



高齢者の犯罪心理学

越智啓太 編著 高齢加害者・被害者の心理、認知(知覚、記憶)、認知症がもたらす影響など、国内外の最先端の研究成果を、犯罪心理学の第一人者らが解説。超高齢社会に突き進む日本が喫緊に対策を練らねばならない課題を心理学的に切り込み、解決に向けたさらなる研究の必要性を訴える。 [3080 円]



子どもへの性暴力 [第2版]

[その理解と支援] 藤森和美・野坂祐子 編 深刻化する子どもへの性暴力の現実を解説し、最新の支援を具体的に示す。関連法改正も踏まえ大幅刷新。最新の研究と実践に基づいて各章と事例を大きく拡充した第2版が、日々の支援をさらに向上させる。 [2970 円]



心理学のための統計学 9

犯罪心理学のための統計学

[犯人のココロをさぐる]

松田いづみ・荘島宏二郎 著

犯人像の絞り込みを行うプロファイラーが、多次元尺度法、決定木、生存時間分析など、現場で生きる統計学を解説する。 [2860 円]



テロリズムの心理学

越智啓太 編著 テロは人間や人間の集団が、偏見や怒り、集団間葛藤等によって引き起こすからこそ、その対策には心理学の知見は欠かせない。本書は発生メカニズム、テロリストの検出、事前阻止等について最先端の研究内容も織り込んで多角的にテロリズムを考察した決定版である。 [3080 円]



誠信書房

Tel 03-3946-5666 Fax 03-3945-8880

<https://www.seishinshobo.co.jp/>

@seishinshobo

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-20-6

FOR SPECIALIST



私たちは
心理テストの「総合代理店」
お電話一本、メール一本で
国内・国外の専門団体に
著名な心理テストを
瀬戸内海から

360日稼働で、お届けしています。

(見積り～予算組みも迅速対応。益々、ベルをご利用下さい。)

全省庁統一資格：0000121354

●代表的 心理検査ツール

WISC・WAIS・TEG・POMS・CAARS・SDS・PF・MMPI・YG・KABC・SLTA・BADS・BIT・箱庭用具～(正規代理店)

●代表的 ご利用ユーザー

公認心理師・精神科医師・臨床心理士・言語聴覚士・人事担当者・養護教諭・スクールカウンセラー～

●代表的 ご利用団体

クリニック・医療団体～大学・特別支援団体・教育センター・教育委員会・矯正施設・自治体・自衛隊・海外日本人学校・国内外企業～

●代表的 心理検査専門出版社

(株)日本文化科学社・(株)三京房・(株)新興医学出版社・(株)金子書房・(株)雇用問題研究会・(株)クリエーションアカデミー～多数の専門出版社



SUCCESS・BELL

サクセス・ベル株式会社

www.success55.co.jp

Mail ■ jp-bell@success55.co.jp

TEL ■ 0823-45-5555

FAX ■ 0823-45-3535

〒737-2302

広島県江田島市能美町鹿川3642-1

犯罪被害と「回復」

求められる支援

伊藤富士江 (編著)

「犯罪被害者調査」の結果から、性被害、交通被害、身体的な被害にあった被害者たちの声をまとめている。その貴重な語りをもとに、被害の実態とその影響、必要な支援策、被害後の変化、そして被害者支援への具体的要望などを分かりやすく解説。



定価 2,700 円+税
A5判 / 248 頁 / 並製
ISBN978-4-87798-859-3

刑事法をめぐる 被害に向き合おう!

被害者・加害者を超えて

阿部恭子、岡田行雄 (著)

刑事法に関わる人々がどのような被害を受けているのかについて、事例を紹介し、事例をもとに、かかる被害が生み出される背景や問題点を解説し、被害への適切な手当とは何かを検討する。



定価 3,000 円+税
A5判 / 312 頁 / 並製
ISBN978-4-87798-863-0

ワークブック 窃盗離脱プログラム リ・コネクト

藤野京子、鷺野薫 (著)

窃盗をしたことのある人が、これから同じ過ちをしないためにはどうしたらよいかについて、窃盗をした人の心——考え方や気持ちにどのような工夫をすると改善できるかをワークブック形式でまとめたもの。



定価 3,500 円+税
B5判 / 280 頁 / 並製
ISBN978-4-87798-826-5

日本の青少年の 行動と意識

国際自己申告非行調査(ISRD)
の分析結果

ISRD-JAPAN実行委員会 (編)

世界各国の中学生にたいして、非行経験にかんする自己申告調査(自記式によるアンケート調査)を実施し、その結果をまとめた論文集。



定価 8,000 円+税
A5判 / 272 頁 / 上製
ISBN978-4-87798-853-1

現代人文社

発売：大学図書

東京都新宿区四谷 2-10 ハッ橋ビル7 階
TEL 03-5379-0307 FAX 03-5379-5388
<http://www.genjin.jp>

ヒトは嗜癖する

共依存から性暴力まで

斎藤 学 著

現代の家族システムへのまなざしを軸に、依存症・家族問題の第一人者である著者の長年の経験に基づく知見を、事例と合わせて紹介する。

四六判 上製 360頁 定価3,960円

強迫症治療マニュアル

エクスプロージャーと反応(儀式)防止法:治療者用ガイドとワークブック

E・B・フォア, E・ヤーディン, T・K・リッチナー 著
松永寿人, 中尾智博, 金吉晴 監訳

現実エクスプロージャー, 想像エクスプロージャー, 反応(儀式)防止法, 処理, 家庭訪問といった要素で構成されたOCD治療プログラム。

B5判 並製 200頁 定価4,180円

愛着トラウマケアガイド

共感と承認を超えて

岩壁 茂 監修 / 工藤由佳 著

幼少期の愛着トラウマを安全基地で癒し、変わりゆくクライアントをサポートする、事例と逐語でわかりやすい「トラウマケアガイド」。

A5判 並製 240頁 定価3,520円

発達性トラウマ症の臨床

杉山登志郎 著

簡易型トラウマ処理TSプロトコルを用いて、発達性トラウマ症・複雑性PTSDなどの困難事例に向き合うための、最新の実践論集!

A5判 上製 192頁 定価3,520円

発達障害支援者のための標準テキスト

幼児期から成人のアセスメントと支援のポイント

辻井正次 監修 / 高柳伸哉 責任編集

保健・医療・福祉・教育等の全領域に対応! この1冊で発達障害支援の全体像が把握できる支援者向けテキスト。

A5判 並製 324頁 定価3,850円

[新装版] バウムテスト活用マニュアル

精神症状と問題行動の評価

D・ドゥ・カスティエラ 著

阿部恵一郎 訳

初版刊行(2002年)から20年。歴史を振り返りながら改めてサインの意味を考える。バウムテストは「サインの読み方」の積み重ねである。

A5判 並製 256頁 定価3,960円

Ψ 金剛出版

〒112-0005 東京都文京区水道1-5-16
Tel.03-3815-6661 Fax.03-3818-6848

<https://www.kongoshuppan.co.jp/>
*価格は税込表示(10%)です。

FOR SPECIALIST



私たちは
心理テストの「総合代理店」
お電話一本、メール一本で
国内・国外の専門団体に
著名な心理テストを
瀬戸内海から
360日稼働で、お届けしています。

(見積り～予算組みも迅速対応。益々、ベルをご利用下さい。)

全省庁統一資格：0000121354

●代表的 心理検査ツール

WISC・WAIS・TEG・POMS・CAARS・SDS・PF・MMPI・YG・KABC・SLTA・
BADS・BIT・箱庭用具～(正規代理店)

●代表的 ご利用ユーザー

公認心理師・精神科医師・臨床心理士・言語聴覚士・人事担当者・養護教諭・
スクールカウンセラー～

●代表的 ご利用団体

クリニック・医療団体～大学・特別支援団体・教育センター・教育委員会・
矯正施設・自治体・自衛隊・海外日本人学校・国内外企業～

●代表的 心理検査専門出版社

(株)日本文化科学社・(株)三京房・(株)新興医学出版社・(株)金子書房・(社)雇用問題研究会・
(株)クリエーションアカデミー～多数の専門出版社

SUCCESS・BELL

サクセス・ベル株式会社

www.success55.co.jp

Mail ■ jp-bell@success55.co.jp

TEL ■ 0823-45-5555

FAX ■ 0823-45-3535

〒737-2302

広島県江田島市能美町鹿川3642-1

箱庭用具

メルコム

メルコムは40年の実績を持つ箱庭用具のブランド。900点を超える豊富な品揃えが豊かで奥深い表現を可能にします。



株式会社 クリエーションアカデミー

〒171-0043 東京都豊島区要町3-9-7

TEL 03-3974-6123 FAX 03-3974-6214

E-mail: info@meltcom.co.jp

カタログ請求・お問い合わせは、サクセスベル株式会社まで

クリエーションアカデミーは箱庭用具「メルコム」の開発・製造元です。